

福島空港活性化を目的とするイベント環境の提案

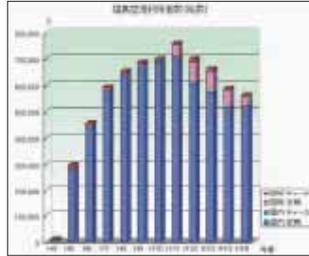
6番 菊池和歌子 8番 橋内友美 10番 久保田靖子

《研究背景と目的》

平成15年度、テロやSARSの影響で福島空港利用者が大幅に減少し、現在も増加していないことをTVで知る。そこで私たちは、福島空港の現状を調査した結果をもとに福島空港を活性化させる術を探り、近隣や就航先の人々に福島空港を知ってもらい、福島空港に足を運んでくれることを第1の目的とする。また、就航先である中国や韓国に興味を向けさせるような提案をすることを第2の目的とし本研究を進めていく。

《福島空港の現状》

- 利用者について
 - 平成15年度はテロ、SARSの影響で国際利用者激減。国内利用者減少。〔資料〕
 - 利用者減少に伴い飛行機の便数減少
- 利用者減少に対する対策と効果
 - 福島空港利用促進協議会の設置（平成元年）
 - 定期的な話し合い
 - 空港の広報活動 就航先へのPR 広報誌でのPR 効果 目立った効果は見られない
 - 空港内でのイベントの開催
 - 2年前から定期的にイベントを開催 効果 「開かれた空港」のイメージ付けに成功
 - テナント利用者の増加
 - マスコミに取り上げられることにより空港PRに 空港が行っている対策と効果よりイベントには効果がある **“活性化の糸口はイベントにある”**



〔資料〕

《イベントについての調査と問題点》

- 以前、イベントは年2回程度 予想以上に集客力大
 - 平成15年より活性化をイベントに求め細かなイベントを定期的に開催
 - 今年度は年間40以上ものイベント開催を予定
 - 物産展など食べて飲んで楽しめるものには集客力がある（福島空港株式会社角田氏 談）
- 問題点
- イベント場소가狭く、様々な制約が必要
 - 集客力のある食品関係のイベントは場所の関係上ほとんど出来ない
 - 近隣地域に関係するイベントしか開催していない マンネリ化
 - 宣伝範囲が狭い（イベントの数は多が内容を伝えきれていない）

《現在のイベント検証》

- 展示会（陶芸、絵画、盆栽、写真、パッチワーク、花、民芸）
- ウルトラマンとリカちゃん握手会 ・物産展（地域の物産展、福島各地区のもの）

展示会について

- 展示会というよりは作品発表会。製作者の知人など特定の人が来ない。
- 集客を目的とした『展示会』をには場소가狭く開催できない。コミュニティスペースとロビーは通路で、高価なものでは展示することができない。多目的会議室は隣にあるため入りにくい。隣が事務所なのも問題。

《既存の場所での提案》

- 物産展は集客があるというデータがあるが、ターゲットも空港周辺の人たちだけに絞られている。広範囲に目を向け、就航先の中国や韓国の物産品も取り扱う物産展を行えば、人が来てくれるのではないかと。問題点 広範囲に目を向けただけ、物産の数も増えスペースも充分に取れない、今まで空港で行ってきた売だけの物産展と大きな違いが見られない。
- 体験型イベントは有効。ミニコンサートは1日の集客数が多い。ミニコンサートと体験型イベントを合わせたイベント。就航先に目を向け、3ヶ国の伝統楽器を使いミニコンサートを行った後、実際に楽器に触れ、弾き、体験出来る。問題点 通路であるコミュニティスペースでは場소가狭く、通行の妨げにもなる。吹き抜けで音が空港中に響いてしまうため体験では弾けない。多目的会議室は隣が事務所になっており、演奏会には向いていない。これらの検証から、集客力があり、福島空港と就航先に興味を持ってもらえるイベントを行うには既存の場所ではさまざまな不具合が生じる。不具合を取り除こうとすると、空港で現在行っているイベントと変わらず、私たちの目的の達成が困難になる。

《提案内容》

そこで私達は、今まで空港側が行ってきたイベントで発生してきた問題を解決した新しいイベントを開催するための環境を提案する。

新しく福島空港の駐車場に私達の考えた集客を望めるイベントに対応出来るイベント会場を設計する。イベント会場働く人の制服や会場のロゴマーク等を総合的にデザインし、イベント環境とする。

またここでは、私達が考えた様々なイベントの中から1つ具体例として「聞茶」を取り上げて進めていこうと思う。

《コンセプト》

様々な催し物に対応できるイベント環境

- 常設のエリアとイベントのエリアをもたせ、効率よくイベント内容の変化に対応出来るように考慮する。
- 3カ国それぞれの特徴を表現しながらも、会場全体の特徴が統一するよう考慮する。

《会場名の説明》

「Yui~Fukushima Airport Hall~」

福島空港とイベントを見に来た客とのつながり「結（Yui）」を大切にするという意味。

《提案するイベント環境の提案》

ロゴマーク



コンセプト

- 3カ国共通して理解することの出来るローマ字を使った
- 曲線を用いることで上品さと気品をイメージし表現した
- 用途にあわせて何種類かのカラーバリエーションがある

使用場所の例

- 販売コーナーで使用するショッピングバック
- カフェコーナーで使用される小物類
- オリジナル商品のパッケージ
- イベント告知のポスター、パンフレット 等

平面図



Yui-Fukushima Airport Hall- 平面図 (S : 1 / 600)

会場説明

- 様々なイベントを想定し対応できるように考慮した
- ステージ、客席は可動式で使用しない時は広い空間として使用可
- 客席側と常設側は、簡易間仕切りにより仕切ること出来る
- 常設として販売、情報、カフェのエリアを設置
- 「聞茶」の時は、客席側の空間を3つに区切り各国の雰囲気を感じながらお茶を飲むことになる

パース



会場働く人の服装



- チマチョゴリを現代風にアレンジし、韓国プースの販売員、受付等が着る
- 韓国関連のイベント時にイベントエリアの案内説明員が着る



- チャイナ服を現代風にアレンジし、中国プースの販売員、受付等が着る
- 中国関連のイベント時にイベントエリアの案内説明員が着る



- 着物を現代風にアレンジし、日本プースの販売員、受付等が着る
- 日本関連のイベント時にイベントエリアの案内説明員が着る

《考察》

今回、福島空港活性化をテーマに研究を進めていくにあたり、調査をしたところ福島空港の現状について知ることが出来た。私達が提案したイベント環境は3カ国の情報を発信すると同時に、福島空港独自のイベントに対応出来る特徴である。効果として、イベントを知った人が空港に来ること、イベントを見て中国や韓国に興味を持つことが挙げられる。

私達の提案によって改善できる点もあるが、空港の利益増加を第1に考えた活性化となると根本的なシステムの改善や運営元である福島県の考え方の改善が必要不可欠であり、私達では1部の活性化についてしか提案できなかったことが悔やまれる。しかし私達の研究により、福島空港について皆様が何か一つでも考えてくれるのであれば研究をした意味があるのではないだろうか。

最後に、協力して下さった福島空港ビル株式会社総務課の角田氏やお世話になった方々に感謝いたします。